

看護実践のための技を身につける領域

対象を全人的にとらえところとところを通わせながら、生命力の消耗を最小限にし、持てる力が最大限に発揮できるように科学的根拠と豊かな創造性に基づき、対象の個別性に応じて生活に働きかけ安全に看護を実践するための、人に向き合う姿勢と技を学ぶ

臨地実習では、人に向き合う姿勢・知・技を統合し、看護を実践する力を養う

※臨地実習については、臨地実習ガイダンス参照

1年次 前期	看護技術論 I (援助的人間関係)	講師名	専任教員	必修	1単位 15時間
科目のねらい	看護の基本をなす対象との援助的人間関係について理解し、援助的人間関係技術について学習する。さらに、相手の立場に立ったあたたかい思いやりのところを基盤としたケアリングにより、人々との相互関係のなかで成長しあう援助的人間関係に関する理解を深め、看護を实践する大切さを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	対人関係プロセスとしての看護 ・対人関係プロセス ・援助的人間関係とは	
2	看護におけるコミュニケーション① ・コミュニケーションの基本的構成要素・成立過程 ・ミスコミュニケーション	教科書などを予習し授業に臨む事
3	看護におけるコミュニケーション② ・ケアリングに基づく人間関係の基本 ・ここからの関心	同上
4	コミュニケーション障害のある人への対応	同上
5	効果的なコミュニケーションの実際 ・傾聴、受容、共感 ・アサーティブネス ・報告・連絡・相談	同上
6	援助的人間関係を考える 演習	実習の場面を思い出し
7	援助的人間関係 まとめ	授業に臨む事
8	評価・まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	心理学、コミュニケーションリテラシー I での学習内容を復習し授業に臨むこと。授業を通し、自分自身の思考・感情・行動に目を向けてみましょう。また自分自身の思考・感情・行動が他者にどのように影響しているかを考えながら、授業に臨んでみましょう。
評価方法	筆記試験100点
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院
参考文献	系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 金井一薫著：ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる！西東社 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア その他 随時提示
備考	

1年次 全期	看護技術論Ⅱ (フィジカルアセスメント)	講師名	専任教員	必修	2単位 60時間
科目のねらい	看護の対象となる人間を理解するために、必要なフィジカルアセスメントの意義と重要性を理解しアセスメント技術の実際について学ぶ。フィジカルアセスメントの概念、系統的に観る意義がわかり、形態機能学での学習内容を踏まえ日常生活行動の視点から対象の健康状態を情報収集し査定する基礎的知識・技術・態度を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	フィジカルアセスメントとは ・看護におけるヘルスアセスメント ・フィジカルアセスメントにおける基本技術	
2	アセスメントの進め方、臨床推論 ①	テキスト『「フィジカルアセスメントガイドブック」本書を読む前に』を熟読して授業に臨むこと
3	一般状態のアセスメント 【演習】バイタルサイン測定 ・バイタルサインの観察に必要な知識、測定の実際	形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護につながる形態機能学の復習をしてから望むこと 第3回目では、事前に配布した援助計画書の学習と動画視聴をしてから臨むこと 第9回の技術チェックの要項を配布するので、授業終了後、計画的に技術練習をしておくこと。
4		
5		
6		
7		
8	アセスメントの進め方、臨床推論 ②	テキスト『「フィジカルアセスメントガイドブック」本書を読む前に』を熟読して授業に臨むこと
9	バイタルサイン測定の技術チェック	計画的に技術練習をしてチェックに臨むこと
10	系統的なフィジカルアセスメント① ・呼吸器系のアセスメント	形態機能学Ⅱ、看護につながる形態機能学の復習をしてから臨むこと
11		
12		
13	系統的なフィジカルアセスメント② ・循環器系のアセスメント	形態機能学Ⅰ、看護につながる形態機能学の復習をしてから臨むこと
14		
15		
16	系統的なフィジカルアセスメント③ ・運動器系のアセスメント	形態機能学Ⅱ、看護につながる形態機能学の復習をしてから臨むこと
17		
18		

19	系統的なフィジカルアセスメント④ ・消化器系のアセスメント	形態機能学Ⅲ、看護につなげる 形態機能学の復習をしてから 臨むこと
20		
21		
22	系統的なフィジカルアセスメント⑤ ・感覚器系のアセスメント	形態機能学Ⅱ、看護につなげる 形態機能学の復習をしてから 臨むこと
23		
24		
25	事例にもとづくフィジカルアセスメント	本科目第1～24回、形態機能学 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護につなげる形 態機能学、看護援助論Ⅰの復習 をしてから臨むこと
26		
27		
28		
29	まとめ	
30	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	<p>関連科目である形態機能学Ⅰ～Ⅲ、看護につなげる形態機能学の復習をし、事前に提示された課題に取り組み授業に臨むこと。</p> <p>参考動画を視聴して看護技術のイメージをして演習に臨むこと。</p> <p>演習時には身だしなみ（髪型、衣服、爪）を整えて臨むこと。</p> <p>技術習得を確認するため技術チェックを行います。なお、本科目の技術チェックの合格は、看護の対象を理解する実習Bの履修要件となっているため、チェック要項を確認し練習を十分に行ったうえで、チェックに臨みましょう。</p>
評価方法	筆記試験・提出課題より総合的に評価する
テキスト	<p>山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p>
参考文献	<p>高木永子著：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研</p> <p>参考動画（ナーシングチャンネル・テキスト付属技術動画）</p> <p>その他 随時提示</p>
備考	

1年次 全期	看護技術論Ⅲ (生活援助①)	講師名	専任教員	必修	2単位 45時間
科目のねらい	「対象の生命力の消耗を最小にするように（生活過程を）整える」ために必要な看護技術の重要性について理解する。また、対象の生命力の消耗を最小にするように生活を整えることを目指して、対象の立場にたち科学的根拠に基づいた安全・安楽な看護技術について習得する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護技術とは	
2	看護における安全① <演習> 手洗い・个人防护具	
3	生活環境を整える①	
4	生活環境を整える② <演習> リネン類の扱い	
5	活動と休息のバランスを整える①	
6	生活環境を整える③ <演習> ベッドメイキング	4回目の演習内容を練習、5回目のボディメカニクスについて復習して授業に臨むこと
7		
8	活動と休息のバランスを整える② <演習> 体位変換	5回目の授業内容を復習して授業に臨むこと
9	生活環境を整える④ <演習> 臥床患者のリネン交換	4～8回目の復習、練習をして授業に臨むこと
10		
11	技術チェック ベッドメイキング	技術練習をして臨むこと
12	生活環境を整える⑤ <演習> 環境整備	13回目の授業では行動記録、環境整備の援助計画を作成して授業に臨むこと
13		
14	活動と休息のバランスを整える③ <演習> 移乗・移送	授業内で提示した課題
15	活動と休息のバランスを整える④	
16	看護における安全②	
17	食と排泄のバランスを整える①	形態機能学Ⅲ、看護につながる形態機能学の「食べる」について復習して授業に臨むこと

18	食と排泄のバランスを整える② <演習>	18・19回目の授業では食事介助の援助計画を作成して授業に臨むこと
19	食事介助	
20	食と排泄のバランスを整える③	形態機能学Ⅲ、看護につなげる形態機能学の「排泄」について復習して授業に臨むこと
21	食と排泄のバランスを整える④ <演習>	21・22回目の授業では排泄介助の援助計画を作成して授業に臨むこと
22	排泄介助	
23	評価、まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	<p>演習時には身だしなみ（髪型、衣服、爪）を整えて臨んで下さい。</p> <p>演習は学生同士で看護師役、事例役となり実施します。</p> <p>事前に「援助計画」を作成します。立案にあたっては、複数の文献にあたり、根拠を考えながら取り組んで下さい。</p> <p>提示した事前課題に取り組み授業に臨んでください。</p> <p>演習の前には参考動画を視聴して看護技術のイメージをしてください。</p> <p>技術習得を確認するため技術チェックを行います。なお、本科目の技術チェック合格は、看護の対象を理解する実習Aの履修要件となっているため、チェック要項を確認し、練習に臨みましょう。</p>
評価方法	筆記試験75点 提出課題25点
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア</p> <p>金井一薫著：ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる！ 西東社</p>
参考文献	<p>高木永子著：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研</p> <p>F. ナイチンゲール・湯槇ます他訳：看護覚え書き 現代社</p> <p>川島みどり監修：学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院</p> <p>参考動画（ナーシングチャンネル・テキスト付属技術動画）</p> <p>その他 随時提示</p>
備考	

1年次 全期	看護技術論Ⅳ (生活援助②)	講師名	専任教員	必修	2単位 45時間
科目のねらい	「対象の生命力の消耗を最小にするように（生活過程を）整える」ために必要な看護技術の重要性について理解する。また、対象の生命力の消耗を最小にするように生活を整えることを目指して、対象の立場にたち科学的根拠に基づいた安全・安楽な看護技術について習得する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	清潔を整える①	提示した事前課題
2	清潔を整える②③ <演習> 部分浴	授業内で提示した事前課題
3		
4	衣生活を整える①	授業内で提示した事前課題
5	衣生活を整える②③ <演習> 寝衣交換	授業内で提示した事前課題
6		
7	清潔を整える④⑤⑥⑦ <演習> 全身清拭	寝衣交換と7・8回目の演習内容を練習して9回目の演習に臨む 9回目までに全身清拭の援助計画を作成する
8		
9		
10		
11	清潔を整える⑧⑨ <演習> 口腔ケア・整容	授業内で提示した事前課題
12		
13	技術チェック 全身清拭	計画的に技術練習をして臨む
14		
15	清潔を整える⑩⑪ <演習> 洗髪	授業内で提示した事前課題
16		
17	清潔を整える⑫⑬ <演習> 陰部洗浄	授業内で提示した事前課題
18		
19	事例Aさんへの看護を考え実践する①	
20	事例Aさんへの看護を考え実践する②③ <演習>	事例に基づき行動計画・援助計画を作成し演習に臨む
21		
22	事例Aさんへの看護を考え実践する④	
23	評価、まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	<p>演習時には身だしなみを整えて臨んでください。</p> <p>演習は学生同士で看護師役、患者役となり実施します。</p> <p>事前に「援助計画」を作成します。立案にあたっては、複数の文献にあたり、根拠を考えながら取り組んでください。</p> <p>提示した事前課題に取り組み授業に臨んでください。</p> <p>演習の前には参考動画を視聴して看護技術のイメージをしてください。</p> <p>技術習得を確認するため全身清拭に必要な技術チェックを行います。なお、本科目の技術チェック合格は、看護の対象を理解する実習Bの履修要件となっているため、チェック要項を確認し、練習に臨みましょう。</p>
評価方法	筆記試験90点 提出課題10点
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院</p> <p>看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア</p>
参考文献	<p>F.ナイチンゲール・湯楨ます他訳：看護覚え書 現代社</p> <p>金井一薫著：ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる！西東社</p> <p>高木永子著：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研</p> <p>参考動画（ナーシングチャンネル・テキスト付属技術動画）</p> <p>その他 随時提示</p>

2年次 全期	看護技術論Ⅴ（治療援助）	講師名	専任教員	必修	2単位 60時間
科目のねらい	「対象の生命力の消耗を最小にするように（生活過程を）整える」ための治療援助に必要な看護技術の基礎的知識を理解する。また、治療援助における看護師の役割と重要性について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	治療援助における看護	基礎概論での看護師の役割、法律を復習しながら理解する。
2	感染リスクが高い患者の看護①	既習した標準予防策を復習して授業内容を考える。
3	感染リスクが高い患者の看護②	
4	感染リスクが高い患者の看護③ <演習> 創傷処置・無菌操作	
5	感染リスクが高い患者の看護④ <演習> 包帯法	疾病の成り立ち（皮膚科）の知識をもって授業内容を考える。
6	検査を受ける患者の看護① 検査の基礎知識	
7	検査を受ける患者の看護② 排泄物・採血物の基礎知識	7を復習、動画視聴後、作成した援助計画に基づき実施する。
8	検査を受ける患者の看護③ <演習> 採血	
9	検査を受ける患者の看護④ <演習> 採血	
10	薬物療法を受ける患者の看護① 薬物療法の基礎知識	10～12を復習し、援助計画作成、動画視聴後に演習を実施する。
11	薬物療法を受ける患者の看護② 6R	
12	薬物療法を受ける患者の看護③ 注射法の基礎知識	
13	薬物療法を受ける患者の看護④ <演習> 内服確認方法、各注射法	10～12を復習し、援助計画作成、動画視聴後に演習を実施する。
14	薬物療法を受ける患者の看護⑤ <演習> 内服確認方法、各注射法	
15	輸液療法を受ける患者の看護①	11・12を復習し、作成した援助計画に基づき実施する。
16	輸液療法を受ける患者の看護② <演習> 持続静脈内注射、中心静脈注射、輸液ポンプ	
17	呼吸障害のある患者の看護① 吸入、酸素療法、吸引	事前に、提示された事例で援助計画を作成し、それに基づき実施する。
18	呼吸障害のある患者の看護② <演習> 事例の中で酸素療法、吸引等を学ぶ	
19	呼吸障害のある患者の看護③ <演習> 事例の中で酸素療法、吸引等を学ぶ	
20	痛みを持つ患者の看護① 腹部：浣腸、排便	事前に、提示された事例で援助計画を作成し、それに基づき実施する。
21	痛みを持つ患者の看護② <演習> 事例の中で、浣腸、排便を学ぶ	
22	痛みを持つ患者の看護③ <演習> 事例の中で、浣腸、排便を学ぶ	

23	排泄機能に障害のある患者の看護①	
24	排泄機能に障害のある患者の看護② <演習> 事例の中で、導尿を学ぶ。	事前に、提示された事例で援助計画を作成し、それに基づき実施する。
25	排泄機能に障害のある患者の看護③ <演習> 事例の中で、導尿を学ぶ。	
26	客観的臨床能力試験 (OSCE) 実技試験 クラス別 8時間 試験準備学習 OSCEの実践 振り返り 援助計画の修正	判断力・技術力・マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を、適正に評価する方法として、OSCEを実施する。OSCE実践の過程には下記が含まれる。 ・事前に提示された事例について援助計画を立案する ・演習の順番決めをする ・必要物品を用意する ・実践後の振り返りと援助計画の修正、課題の提出 これまで学んだ知識と援助技術が原理原則に基づいて実践できるか、事例で設定された看護場面で、複数の技術を統合して看護を展開する。
27		
28		
29		
30	評価とまとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	看護技術論Ⅱ、看護につなげる形態機能学、看護援助論Ⅱの学習内容を活用する。また、既習科目（形態機能学・微生物学・薬理学・疾病の成り立ちと回復の促進）の内容を関連させて学習を進め、理解を深めよう。各演習・OSCEでは事前課題に基づいて「援助計画書」を作成する。立案に当たっては複数の文献にあたり、根拠を考えながら取り組むに、演習の前には参考動画を視聴して看護技術のイメージしておくことが望ましい。相手に侵襲を伴う技術であることを実感し、提示された事前課題に取り組み、授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験60点 提出課題40点
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 基礎看護技術 メディックメディア
参考文献	参考動画（ナースチャンネル・テキスト付属技術動画） その他 随時提示
備考	

3年次 全期	看護援助論統合演習 I	講師名	専任教員	必修	1単位 15時間
科目のねらい	これまで学んだ知識と技術を統合し、設定された看護場面に対する状況判断ができ、必要な看護を実践できる能力を養う。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	オリエンテーション 1h	
2	演習①②③ クラス別6h 健康段階別看護論実習 I (慢性・リハビリテーション期) 前演習 慢性期にある対象の状態を観察、判断し看護を実践する。	健康段階別看護論 I・II等の既習科目 を復習し、事前課題 をもとに演習に臨 む。
3		
4		
5	オリエンテーション 1h	
6	OSCE (客観的臨床能力試験) 【実技試験】 クラス別7h 急性期にある対象の状態を観察、判断し看護を実践する。	健康段階別看護論 III・IV等の既習科目 を復習し、事前課題 をもとに演習に臨 む。
7		
8		
9 (1h)		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	事前に患者情報を提示、行動計画を立案したうえで、演習時に実際に援助を実施する。十分に自己学習・技術練習を行い臨むこと。 援助実施後にデブリーディングを行い、学びを明確にし、臨地実習につなげる。
評価方法	提出課題および取り組み状況：50点 OSCE：50点
テキスト	随時提示
参考文献	随時提示
備考	

4年次 全期	看護援助論統合演習Ⅱ	講師名	専任教員	必修	1単位 15時間
科目のねらい	<p>これまでに学んだ知識と技術を統合し、臨床現場における実践に対応できる能力を養う。援助過程における複合的な状況をアセスメントする場面などを設定し、「生命力の消耗を最小限にし、その人の持てる力が最大限に発揮できるようにしながら、生活を整える」ことに向け、援助的人間関係能力、看護技術力とともに状況を的確に判断する能力を養う。</p> <p>なおかつ4年間の集大成として、身についた実践力を評価するOSCE（客観的臨床能力試験）を実施する。</p>				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	事前オリエンテーション <多重課題、OSCE> 1h	各演習の事前課題の提示
2	多重課題演習 【 演習 】 クラス別 6 h ▶ 複数患者を受け持ち、状況設定に応じた多重課題に対応する。 多重課題の危険性と優先順位の判断を行い、自己の傾向を知る。	*全ての既習科目を活用して授業準備と復習に取り組むこと。 *カリキュラムガイダンスの「各年次の到達目標」にある4年次の『人間関係能力』『看護実践能力』『看護観』『チームで働く力』『自ら学び続ける』の内容を自覚して取り組むこと。
3		
4		
5	OSCE（客観的臨床能力試験）【 実技試験 】 クラス別 8 h ▶ 試験準備学習 複数事例を提示し病態の理解や患者の状況をアセスメント、必要な援助の計画立案・手順の確認、技術練習に臨む。 ▶ OSCEの実際 援助する際は、専門職業人である看護チームの一員としての責務を自覚し、報告・連絡・相談を実施する。	
6		
7		
8		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	<p>事前にSP（模擬患者）情報の提示を受け、援助に必要な学習準備と十分な技術練習に臨むこと。援助実施後は、SPからの評価を受けて振り返りを行い、学びを事後レポートで明確にして臨地実習や卒業後の看護実践につなげる。</p> <p>演習および実技試験当日に向けて、十分に健康管理を行い臨むこと。</p>
評価方法	<多重課題：30点> 事前課題：10点、事後レポート：20点 <OSCE：70点> 事前課題：20点、実技試験：30点、事後レポート：20点
テキスト	随時提示
参考文献	随時提示
備考	